【外国語・中３・「Unit6　Lively Towns in Japan」】①

育成を目指す資質・能力

（知識・技能）現在分詞と過去分詞の後置修飾を用いて、人やものについて詳しく説明したり、仮定法を用いて、願望を表したりすることができる。
（思・判・表）総合的な学習の時間「○○○町学習」で学んだことや実生活で経験している○○○町の特徴や魅力について、ALTの興味や知りたい情報等に応じてやり取りすることができる。
（　主体態　）○○○町について、ALTの興味や知りたい情報等に粘り強く伝えようとしている。

ICT活用のポイント

オンライン会議システムを使って、教室にはいない多くの外国人とやり取りすることで、言語活動をより体験的なものにする。

他市の学校に勤務するALT８名

【つかむ】（試しの活動）
下仁田町の特徴や魅力について友人と伝え合ってみる。

下仁田に興味をもっているALTとやり取りしながら下仁田の特徴・魅力を伝え合おう。

【追究する】
下仁田町の特徴や魅力について言語面、内容面で話す内容を深めていく。

【まとめる】
ALTの興味に応じて、下仁田の特徴・魅力を伝える。

事例の概要

・単元をとおして学習したことを使って、他市のALTとオンライン会議システムでつないで○○○町の特徴や魅力についてやり取りする。
・やり取りの様子を学習支援ソフトの録画機能を使って記録する。

【事例におけるICT活用の場面①】

・オンライン会議システムを使って、他市で指導しているALTとつないで、下仁田の特徴や魅力についてやり取りする。

【事例におけるICT活用の場面②】

・学習支援ソフトの録画機能を使用し、やり取りの様子を録画する。
・録画したやり取りの様子を【つかむ】過程において試しの活動として行ったやり取りの様子と比較する。
・後で指導者は録画したやり取りの様子を評価する。

【外国語・中３・「Unit6　Lively Towns in Japan」】②

【事例におけるICT活用の場面①】

○まとめる過程においてオンライン会議システムを使い、町外の市に所属しているALT８名と接続し、２～３名グループで下仁田町の特徴や魅力についてAやり取りを行った。３回ほど別のALTとやり取りを行う中で、ALTの質問も下仁田町のめずらしい食べ物や人々の様子、自然など多岐にわたり、生徒は何とか伝えようと、既習事項を駆使しながら英語を話す姿が見られた。

○外国語は体験的な言語活動を通して、実際に英語を使いながらコミュニケーション力を向上させる必要があり、空間的な制約を超えることが容易あるICTを使って教室外と接続することで、実践的な英語学習環境を作ることができる。

町外の学校に所属するALTに協力をしてもらう上で、市町村教育委員会に協力をしていただいた。

【事例におけるICT活用の場面②】

○つかむ過程における試しの活動で、下仁田の特徴・魅力について、友人と英語で伝え合っている姿を録画し、単元末の言語活動における姿と比較することで、生徒は自分自身の英語の成長を感じ、達成感を持つことができていた。

○後ほど、録画したものをもとに、評価規準と照らし合わせながら評価することができる。

使用している２台のPCのうち、１台が録画のためのPCでもう１台がALTと接続するためのPC。

【活用したソフトや機能】

・オンライン会議システム
・学習支援ソフト
　録画機能
・大型提示装置